



A Collection of Bookplates Mainly of U.S.A. and England  
 1800 ~ 1900 年代の蔵書票 神奈川大学図書館蔵

## 目次

- 夏の楽しみ—ミステリー小説を読む—  
 …… 2頁
- 横浜図書館 新しい施設のご案内  
 新・特設コーナーのお知らせ …… 4頁
- 【連載】図書館のススメ (その8)  
 横浜の専門図書館@新聞ライブラリー …… 5頁
- 【視聴覚資料室より】  
 クロス・ロード  
 —悪魔に魂を売り渡した男— …… 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介  
 『ランド・ホテル：横浜の近隣地と  
 そのガイドブック』 …… 7頁
- 図書館からのお知らせ  
 今号の表紙  
 編集後記 …… 8頁

## 図書館 イベントスケジュール

横浜図書館では、7月1日より展示「マーブル紙に見る書籍の美」を行っています。  
 本の表紙や見返しに貼られている美しいマーブル紙を展示するとともに、その伝統、技術について紹介します。  
 どうぞご覧ください。

**場所** 横浜図書館  
 1F 展示ホール

**期間** 2011年7月1日から  
 3ヶ月の予定

**時間** 開館時間に準じる

## 夏の楽しみ — ミステリー小説を読む —

### ミステリー

神秘的なこと。不思議な物事。謎。  
怪奇小説。推理小説。探偵小説。

(JapanKnowledgeより抜粋)

ミステリー小説には、探偵もの、怪奇小説、サスペンス、ハードボイルド、刑事物など、さまざまなジャンルが含まれます。怪奇小説や謎に満ちた物語は、日常では経験することのない刺激を読者に与えてくれ、読み終わった後でも背筋の寒くなる気分が続くこともめずらしくありません。一方“探偵小説”としてのミステリー小説は、探偵が鮮やかな手腕で事件を解決することにスカッとした快感を覚え、欺かれた手口が巧妙であればあるほど、読者はなぜか楽しくなります。

今回は、海外ミステリー小説の歴史に残る名作家とその作品を、短編小説を中心に紹介します。

### エドガー・アラン・ポー (1809～1849)

Edgar Allan Poe

アメリカ、ボストン生まれ。詩人、小説家であり、雑誌編集者、批評家としても活躍した。物語の中に探偵が登場し、事件を鮮やかに解決してみせる推理小説の最初の作品は、ポーが1841年に発表した『モルグ街の殺人』であると言われている。怪奇小説家としても優れた作品を残し、理論的にして狂気に満ちたモノローグや、脅迫観念のとりこになり自ら破滅を手繰り寄せる男などが描かれる。江戸川乱歩が、ポーの名前をもじってペンネームにしたことはよく知られている。

代表作『モルグ街の殺人』『盗まれた手紙』『黒猫』など

#### 『黒猫：モルグ街の殺人；他』

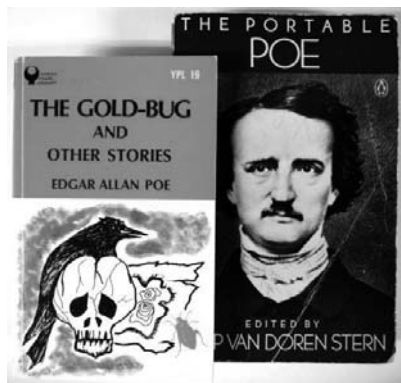
請求記号：B908-13-13 横浜 地下上層

#### 『黄金虫・アッシャー家の崩壊：他9編』

請求記号：B081-1858-41 横浜 3F開架

請求記号：081-2-582 平塚 第一閲覧

文学史上初の探偵、オーギュスト・デュパンが登場する「モルグ街の殺人」、怪奇小説「猫」「あばき立てる心臓」などを収録した短編集。



▲ポオの作品集と肖像

### ロアルド・ダール (1916～1990)

Roadl Dahl

イギリス、サウス・ウェールズ生まれ。1942年アメリカ大使館付き武官になり短編小説を書き始める。「The New Yorker」「Esquire」誌に短編小説を発表、1953年に『あなたに似た人』でMWA最優秀短編賞を受ける。児童文学、戯曲、長編小説も発表し、映画『チャーリーとチョコレート工場』の原作者でもある。日本が舞台の『007は二度死ぬ』の映画脚本も手がけた。

代表作『あなたに似た人』『オズワルド叔父さん』『チョコレート工場の秘密』など

#### 『あなたに似た人』

請求記号：B081-67-61 横浜 地下上層

善良な妻が犯してしまう殺しの物語「おとなしい凶器」、十回連続でライターに火をつけたら車をあげましょう。もしつかなかったら…という恐怖の賭け「南から来た男」は、それぞれ名作として名高い短編。また、有名な画家の作品を背中に彫った老人の運命「皮膚」など、“奇妙な味”の小説集。

## パトリア・ハイスミス (1921～1995)

Patricia Highsmith

テキサスに生まれ、ニューヨークで育つ。映画『太陽がいっぱい』(2000年『リプリー』として再映画化)、ヒッチコックの『見知らぬ乗客』など、映画化された作品は多い。ミステリー小説の作家としてだけでなく、純文学の作家としても評価されている。

代表作『太陽がいっぱい』『贗作』などのトム・リプリー・シリーズ、『変身の恐怖』など

### 『11の物語』

請求記号：B081-922-61 横浜 3F開架 請求記号：081-8-316.1 平塚 第二閲覧新書  
とにかく気持ちの悪い「かたつむり観察者」、老女二人の意地悪合戦「愛の叫び」など、どの物語も読み終わった後、この先何が起きているのだろうかという不安を読者にかきたてる11の短編集。

## アガサ・クリスティ (1890～1976)

Agatha Christie

死後35年たった今でも、人気ミステリー作家の投票をすると必ず上位に入る“ミステリーの女王”。1920年『スタイルズ荘の怪事件』を発表。エルキュール・ポアロやミス・マーブルなどの人気探偵が活躍する名作を生み出し、世界的人気を誇る推理小説家となった。

代表作『アクロイド殺し』『オリエント急行殺人事件』『そして誰もいなくなった』など。

### 『葬儀を終えて』[長編小説]

請求記号：B081-3-61 横浜 地下上層  
急死した資産家リチャード・アパネシーの葬儀で「リチャードは殺されちゃったんでしょ。」と言い放った妹コーラが翌日、死体で発見される。名探偵ポアロの鋭い観察眼によって事件は解き明かされるが、この作品の犯人像は他のどの作品よりも恐ろしい。

## その他、こんなミステリーの本も…

### 『復刻 エラリー・クイーンズ・ミステリ・マガジン』

請求記号：B933-2133 横浜 地下上層

日本で最初の翻訳ミステリー雑誌。1951年の創刊号から第3号までを収録した復刻版。1941年 探偵小説の大御所エラリー・クイーン(フレデリック・ダネイとマンフレッド・リーの合作ペンネーム)が編集長となり、ミステリーの傑作短編作品を掲載する雑誌を刊行した。日本版の刊行が始まったのは1951年、翻訳者には江戸川乱歩、田村隆一などの名が並ぶ。

### 『憑かれた鏡 エドワード・ゴースリーが愛する12の怪談』

請求記号：B933-1791 横浜 第一グループ閲覧室

『おぞましい二人』『華々しき鼻血』などの作品で熱狂的なファンを持つアメリカの絵本作家、エドワード・ゴースリーが選んだ短編怪奇小説集。W. F. ハーヴィによる「八月の炎暑」は息の詰まるような恐怖に満ちている。



▲創刊号の表紙

### 『レベッカ』 ダフネ・デュ・モーリア [長編小説]

請求記号：B933-1904 横浜 第一グループ閲覧室

イギリスの名家、マンダレイに嫁いだ「わたし」。家政婦のダンヴァース夫人は、前妻のレベッカを崇拝するあまり「わたし」を心理的に追い詰め、結婚生活は破綻へと向かっていく。今は亡きレベッカの影におびえる「わたし」は、ある日レベッカの遺体が海から発見されたことをきっかけに全ての真実を知る。19世紀の『ジェイン・エア』と並び称される、20世紀のゴシック・ロマンの名作とされ、出版されてから70年以上も絶版にならずに読み継がれているミステリー小説。

デュ・モーリアはヒッチコックの映画『鳥』の原作者でもあり、本作品も同監督によって映画化されている。

## ■ 横浜図書館 新しい施設のご案内

### 横浜図書館に「リフレッシュルーム」がオープンしました

2011年5月、横浜図書館地下1階に新しい部屋がオープンしました。部屋の名前は「リフレッシュルーム」。皆さんの情報交換の場として、そして勉強の合間に「リフレッシュ」する場として設置しました。まだまだ知名度が低く「ここは何をする部屋？」と覗き込んでいる利用者の方がたくさんいるこの部屋について、ご紹介したいと思います。

#### ○蓋付の飲み物を飲むことができます

図書館内は飲食厳禁です。ただ、長時間図書館を利用する時に水分を補給しないのも体に良くありません。この部屋では例外として、蓋付の飲み物のみ飲むことができます(食事は厳禁です)。ただし「リフレッシュルーム」を出る時には、必ず蓋を閉めて、かばんの中に入れてください。



#### ○図書館からいろいろな情報をお知らせします

デジタルサイネージという言葉を知っていますか？大きなビルの壁面などに設置されている電子看板のことです。「リフレッシュルーム」の中にある大きなTVのようなものが図書館のデジタルサイネージです。図書館から皆さんにお知らせしたい情報を毎日発信しています。内容は定期的に変わるのでぜひ眺めてみてください。

#### ○利用者の皆さんの情報交換の場としてお使いください

図書館内は基本的に私語厳禁ですが、「リフレッシュルーム」は、友達と情報交換をする場としても利用することができます。ただし、あくまで他の利用者の迷惑にならない範囲でお願いします。

皆様のご利用をお待ちしています。

## ■ 新・特設コーナーのお知らせ

### 震災関連資料のコーナーを作りました

2011年3月11日 日本は未曾有の大災害に見舞われました。震災当日、本学図書館も大きな揺れを感じ、書架から大量の本が崩れ落ちました。幸いにも学内ではけが人は出ませんでした。卒業式、入学式が中止されるなど、被災地から遠く離れた神奈川大学にもその影響ははっきりと現れています。

この大きな震災と同時に発生した福島第一原子力発電所の事故や災害対策、復興支援、日本のこれからのエネルギー政策などについて、横浜図書館では〈東日本大震災とエネルギー問題を考える〉と題して、また、平塚図書館では〈大震災に学ぶ！〉と題して、それぞれ特設コーナーに関連する資料を集めました。ぜひ手にとってみてください。



#### ■東日本大震災：読売新聞報道写真集／読売新聞社

東日本大震災の様子を記録した写真集。震災後2週間にわたって発生した事柄の記録とともに、多くの写真が掲載されている。

【請求記号 横浜：B369-2496 平塚：369.31-60】

#### ■巨大地震はなぜ起きる：これだけは知っておこう／島村英紀

地震発生のメカニズムから地震予知の可能性まで、専門的な内容をわかりやすく解説した図書。地震から生き延びる知恵についても述べられている。

【請求記号 横浜：B453-227.B 平塚：453-25】

#### ■太陽と原子力：エネルギー供給を考える／今仁和武

資源を持たない日本にとって、エネルギーの安定供給は重要な課題である。この本では、太陽エネルギーの可能性や原子力発電のありかたについて検討している。

【請求記号 横浜：B501.6-338 平塚：501.6-199】



## 横浜の専門図書館② 新聞ライブラリー

横浜の専門図書館を紹介するシリーズの2回目は、前号の放送ライブラリーと同様、日本大通りの横浜情報文化センターの4階にある「新聞ライブラリー」です。横浜情報文化センターには日本新聞博物館があり、その博物館に併設されているのが新聞ライブラリーです。博物館の入館は有料ですが、ライブラリーのみ利用は無料です。

新聞ライブラリーはその名のとおり、新聞に特化した専門図書館です。閲覧席12席、マイクロ閲覧席4席の小さな図書館ですが、全国紙・地方紙・専門紙・海外紙等、約170タイトルを閲覧、コピーすることができます。朝日・産経・東京・日経・毎日新聞はすべて「横浜版」を所蔵しています。また、スポーツ新聞も、例えば『日刊スポーツ』なら東京版、大阪版、北海道版、西部版を所蔵しています。

### 中部地区の新聞所蔵例

- |             |            |               |
|-------------|------------|---------------|
| ・朝日新聞（名古屋版） | ・岐阜新聞      | ・静岡新聞         |
| ・信濃毎日新聞     | ・市民タイムス    | ・中日新聞         |
| ・中部経済新聞     | ・長野日報      | ・日本経済新聞（名古屋版） |
| ・東愛知新聞      | ・毎日新聞（中部版） | ・南信州          |
| ・山梨日日新聞     | ・読売新聞（中部版） |               |



新聞に特化した図書館ですが、「新聞紙」があるだけではありません。新聞に関する書籍もあります。特に新聞社の社史コレクションは、会社の沿革を知る上で、新聞社への就職を目指す学生さんにはよいかもしれません。また、新聞記事を検索できるオンラインデータベースも充実しています。神奈川大学図書館でも何紙か契約していますが、新聞の専門図書館だけあって利用できる新聞記事データベースの数は豊富です。地方紙もデータベースで提供しています。



### 利用できるオンラインデータベース例

- |         |           |         |
|---------|-----------|---------|
| ・共同通信   | ・時事通信     | ・北海道新聞  |
| ・河北新報   | ・新潟日報     | ・京都新聞   |
| ・神戸新聞   | ・デイリースポーツ | ・岡山日日新聞 |
| ・日本海新聞  | ・徳島新聞     | ・長崎新聞   |
| ・宮崎日日新聞 | ・沖縄タイムス   | ・スポーツ報知 |
| ・日本海事新聞 |           |         |



入館する際は、受付で入館表に所定事項を記入し、ロッカーに貴重品・筆記具以外の荷物は預けてください（100円返却式）。館内に持ち込む荷物が多い場合は、受付にある透明バッグを利用してください。館外貸出は行っていません。また館内での飲食・喫煙・携帯電話の使用は禁止されています。

新聞博物館（入館料500円）もなかなか興味深い博物館です。情報文化センターの2・3・5階に渡り、企画展示はもちろん、新聞製作にチャレンジできる「新聞製作工房」、新聞や横浜に関するグッズを扱ったミュージアムショップもあります。なお、この横浜情報文化センターのすぐ隣には、「横浜ユーラシア文化館」「横浜都市発展記念館」があります。駅直結のところこれだけの文化施設があり、外に出るとすぐ目の前に横浜の歴史ある町並みにと港が広がっています。白楽から数駅ですので、是非足を運んでみてください。

### 新聞 ライブラリー 利用案内

所在地  
交通アクセス  
開館時間  
休館日  
ホームページ

神奈川県横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター 4階  
みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口（情文センター口）直結  
10:00～17:00（閉架資料の請求は閉館30分前まで）  
毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は次の平日）・毎月最終火曜日・年末年始  
<http://newspark.jp/library/index.html>

## クロス・ロードー 悪魔に魂を売り渡した男

### Robert Johnson The Complete Recordings

ブルーズとは19世紀後半、アフリカ系アメリカ社会の黒人達から生まれた音楽である。奴隷として生き、解放された後でも白人社会から差別された黒人達の労働歌や、フィールド・ハラー（野良での叫び）などから生まれた歌が、ヨーロッパ系民謡のバラッド形式を借りて形成された。「ブルーズ(Blues)」という言葉は、悲しみや絶望を表すものとして長い間使われ、その曲は哀調を帯びたスローテンポの曲が多い。

その起源をアメリカの田舎、特に南部に持つブルーズは「カントリー・ブルーズ」とよばれ、中でも後のロック・ミュージックの展開に最も影響を及ぼしたのが、カントリー・ブルーズの中でもミシシッピ、デルタ地帯で生まれたデルタ・ブルーズである。

デルタ・ブルーズの伝説的なミュージシャン、ロバート・ジョンソン(Robert Johnson)は、1911年、ミシシッピ州ヘイズルハーストで生まれた。今年2011年は、生誕100周年にあたる年だ。

複雑な家庭環境で生まれたロバート・スペンサー少年は、後に本当の自分の父親の名、ジョンソンを名乗るようになり、十代で音楽に興味を持つようになる。やがてギターに関心を持つようになったロバートは、彼の住むロビンスンヴィルの町にやってくるミュージシャン達に教えられ、人前で演奏をするようにはなるが、当時、彼は自分自身のことを農夫であり、ミュージシャンだとは思っていなかった。

18歳で結婚するが、翌年妻を出産で亡くすとロバートは自分の生まれた町、ヘイズルハーストを目指して旅に出る。この間にアイク・ジナナンというブルーズマンと出会ったことにより、ロバートのギターの技術は飛躍的に向上し、次第にプロのミュージシャンとして名の知れた存在になっていく。故郷のロビンスンヴィルに戻ったロバートは、ミュージシャンとして迎えられるが、すでに農夫ではなくなったロバートは故郷を去り、アーカンソー州のヘレナという小さい町を本拠地とした。

ある時、ロバートのギター・テクニクに驚いた聴衆が、どうしてそんなにうまく弾けるのかと聞くと、彼は「深夜の十字路（クロス・ロード）で自分の魂を悪魔に売って、ギター・テクニクを得た」と語った。これがロバート・ジョンソンの「クロス・ロード伝説」である。

このCDは、ロバート・ジョンソンが録音した曲のすべてが収録されている。録音されたのは1936年11月と1937年の6月である。ノイズが消し去られた、作られた音楽に慣らされた我々の耳は、1930年代に録音された音楽に驚くかもしれない。だが、ここには、いかなるフィルターもかかっていない生の人間の声がある。彼が生きている時代に限定的には〈テラプレイン・ブルーズ〉がヒットしたが、大手のレコード会社はこのような音楽には興味を示さなかった。彼が再び注目を集めるようになったのは1960年代になってからであり、また、ストーンズやクラプトンがロバートについて語ったことで当時のロックにも影響を与えた存在としても知られるようになったのである。



ロバート・ジョンソンは1938年に亡くなった。死因は毒殺と言われている。女性に人気があり、自身も女好きだったロバートはおそらく手を出した女の亭主、あるいはその女自身に毒を盛られたという説があり、27歳の若さにしてこの世を去ってしまったのである。

The Complete Recordings / ロバート・ジョンソン  
 横浜図書館 視聴覚資料室  
 CD請求記号：R7A-226、227

## グランド・ホテル：横浜とその近隣地のガイド・ブック ラフカディオ・ハーンの友—AMENOMORI I

開港期の横浜にはユニークな男がいた。アメリカで学んだ経験を持ち、英、独、仏語を操り、グランド・ホテルの外国人宿泊客に日本文化の説明をする出入りの“西洋洗濯屋”。日本について何をたずねても知らぬことの無いこの男は当時、横浜の外国人の間では有名だった。

グランド・ホテルが開業したのは1870年、来日する外国人が最初に日本の土を踏む地—横浜のホテルは多くの外国人客で賑わった。西洋暮らしの経験があるその男は、人々が川や井戸端で着物を洗濯していた時代、輸入した洗濯機を使い、衛生を売りものに横浜の外国人宅やホテルの洗濯物を引き受ける商売をしていた。この“西洋洗濯屋”が本書『グランド・ホテル：横浜とその近隣地のガイド・ブック』の執筆者、<sup>あまのりのぶしげ</sup>雨森信成(c.1858-1906)である。

グランド・ホテルの宿泊客のために作られたこのガイド・ブックは、単なる観光案内書ではなく、名所・旧跡の案内を通して日本文化を外国人に紹介する書となっている。



1908年版（奥）と1892年版（手前）

雨森信成は、福井藩士松原十郎の次男として生を受ける。後にその優秀さを見込まれて雨森家の養子となり、雨森信成となる。1870年福井の藩校「明新館」に英語教師が着任し、翌年、英学をもっと学びたいと希望した信成は横浜の宣教師の元で英語を学ぶ。西洋文明の優越性をキリスト教に基づくものと教えられた信成は、一度はキリスト教の洗礼を受けるが、やがてその信仰からは遠ざかる。1881年頃、彼は欧米に出発し、二十代の後半を西洋で過ごし三十歳で帰国する。

明治初期、外国語を駆使する能力を持った「英語使い」と言われる一群の者達が日本に生まれたのは1860年前後である。徹底した英語教育を受けた彼らは、自国の優れた面を外国に紹介したいという愛国心から英語で著述した。当時、岡倉天心（1862年生れ）、新渡戸稲造（1862年生れ）などがその優れた英語力を駆使して著作を発表してい

る。雨森も後に英語で『大和魂』という著作を表す。

そのころ、日本における創作活動の手助けをしてくれる友人を探していた外国人がいた。1890年「ハーパーズ・マガジン」の取材旅行で来日し同年、島根県松江市の尋常中学校に外国人教師として赴任したラフカディオ・ハーンである。ハーンは一人の日本人を紹介される。それが雨森信成である。

ハーンは、まだ西洋文明に毒されていない「旧日本」を愛し、急激に西洋化する「日本」を嫌悪していた。一方、雨森は、その海外生活で西洋の文化、思想の巨大さに圧倒されながらも、悪においてもはるかに日本を凌ぐその社会を目の当たりにし、自国の伝統や従来からの価値観を西洋よりも劣ったものとして投げ捨てることの愚かさを悟っていた。雨森はハーンの日本文化に対する理解の深さと、日本人に対する共感を知り感激する。ハーンは雨森の仏教や神道、漢文の知識の深さに驚嘆し、その助けによって『東の国より』『心』などの作品を生み出していく。やがて二人の交流は、知的交流の域を超えるものとなる。

当時の日本は、西洋の思想や価値観を日本よりも優れたものと考え、急激に西洋化に突き進み、従来からの価値観を捨てようとしていた。このような時代の中で書かれた本書は、単に今から一世紀以上前の観光案内書であるだけではなく、明治期に海外に渡り西洋の文化に触れ、物質的、思想的に圧倒的優位にあったとされた西洋世界で暮らしながらも、自国の持つ文化の価値や美点を自覚し日本へ回帰した日本人、そして『怪談』『心』などの作品を通して日本文化を世界に伝えた文学者ラフカディオ・ハーンの創作において重要な役割を果たしたとされる一人の日本人—雨森信成という類まれな人物が、世界に向けて発信した日本文化の案内書であると言えるのではないだろうか。

グランド・ホテル：横浜とその近隣地のガイド・ブック

The Grand Hotel limited : guide book for Yokohama and immediate vicinity

請求記号：A 291-69 (1892年版)、A 291-95 (1908年版) 横浜 準貴重書庫

(参考文献：平川 祐弘『破られた友情 ハーンとチェンバレンの日本理解』1987年)

## 図書館からのお知らせ

### 横浜・平塚共通

#### ◎夏季長期貸出について

貸出期間：7月18日(月)～9月15日(木)

返却期限：9月30日(金)

対象：学部生・科目等履修生

冊数：10冊

#### ◎一般公開休止について

前期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期間：7月4日(月)～8月3日(水)

#### ◎一斉休暇に伴う休館について

期間：8月11日(木)～8月16日(火)

### 横 浜

#### ◎夏季休業期間中〔8月4日(木)～9月20日(火)〕の開館スケジュールについて

夏の節電対策に伴い、サービスを変更します。

○開館時間を以下のとおり変更します。

9：30～18：00→9：00～17：00

○視聴覚資料室は閉室します。

○3Fおよび2F第二閲覧室は閉室します。

※日・祝日および一斉休暇期間は休館です。

### 平 塚

#### ◎休日開館について

前期試験実施に伴い、下記日程を開館といたします。

日 程：7月10、17、24、31の各日曜日

開館時間：9：10～16：50

\*7月31日を開館とし、当初開館予定の7月3日は休館といたします。

#### ◎夏季休業期間中〔8月4日(木)～9月20日(火)〕の開館スケジュールについて

開館時間：9：10～16：50

夏の節電対策に伴い、サービスを変更します。

○第二閲覧室は閉室します。

※土・日・祝日および一斉休暇期間は休館です。

## 編集後記

暴君として悪名高いローマ皇帝ネロは、優れた建築物を作らせたことでも有名である。ネロの宮殿“ドムス・アウレア（黄金宮殿）”は、ローマン・コンクリートを用いた新しい技術で建設された。当時ローマでは、人工的に自然を取り入れた庭園を造るのが流行り、そこで皇帝や貴族たちは精神的、肉体的に解放され快適なひと時を過ごしたそうだ。広大な「自然庭園」の中に建てられたドムス・アウレアの八角形の大広間には金箔が塗られ、天窓が作られた。天窓から大量に降り注ぐ太陽光が金箔を照らし、大広間は光に満ちあふれていたと伝えられている。

およそ千年後のヨーロッパ。ゴシック時代、大聖堂の中には、ステンドグラスを通した神秘的な光が差し込んでいる。ゴシック教会の内部は民衆になじみが深く、畏怖の対象でもあった森に似ている。天井高く伸び上がるアーチには樹木のような生命感が宿り、そこに差し込むステンドグラスの神秘的な光は、あたかも深い森の木々の間に差し込む太陽の光のようである。ゴシックの美しい光は、人間の精神が神へ到達するための可視的な助けだとされていたが、当時の民衆には、彼らの厳しい人生に差し込む一筋の希望の光のように思えたかもしれない。

21世紀の現代。私たちは優れた技術を開発し、太陽の光が消えても暗闇に閉ざされることはなくなった。金箔の塗られた部屋で太陽の光を楽しんだローマ皇帝のように、私たちは光を享受した。そしてその豊かさを十分に味わったあと、やはり自然の力には勝てないのだと思うようになった。だが、ゴシックの大聖堂で祈る者のように、私たちは薄闇に差し込む光に希望を託し、懺悔をしつつ進んでいくのだろう。(N.E.)

## 今号の表紙

### EX LIBRIS[蔵書票]

蔵書票とは、図書の所有者をあらわすために見返しなどに貼るラベルのことを言う。

EX LIBRISとはラテン語の「…の蔵書から」の意味。所有者によってさまざまなデザインのもののが作られ、古書などにはこのような蔵書票が貼られたものが見つかる。神奈川大学にも独自の蔵書票がある。

(神奈川大学図書館の蔵書票)

